

日外協「海外安全シミュレーションセミナー」

受講者に誘拐事件対応を疑似体験してもらう目的で年に1度開催するセミナー。

もし身代金誘拐事件が起こったら。グループディスカッションと実演を交えながら対策を考える。

(6月7日開催、「シミュレーションセミナー(誘拐発生から解放まで)」から抜粋)



講師

日外協 海外安全アドバイザー 松丸 俊彦 氏

参加者と対応策を考える

シミュレーショントレーニングの狙いは、安全対策の仕組みで足りないところを確認し、規定を作成または見直すこと。

誘拐には11のフェーズがある。犯行グループによる①ターゲットリストの作成、②内偵・調査、③標的の最終決定、④誘拐実行、⑤人質移送、⑥人質拘束。そして、⑦交渉、⑧身代金支払い、⑨人質解放、⑩解放後のケア、⑪警察による捜査。重大局面でどうすればよいか、参加者と共に対策を探る。

シミュレーション：連絡がつかない

本社(日本)に勤務する社員Aさんがマニラに出張した。ところが、マニラ支社員から本社に電話がかかってきた。「Aさんがマニラ支社に到着していません」「迎えに出した運転手から『空港を出発した』との連絡がありました。その後、連絡がつきません」。

Q 連絡がつかない状況を踏まえ、マニラ支社は何をしますか？

Point あらゆる可能性を考えてみる

シミュレーション：誘拐されたことが判明

運転手がマニラ支社に駆け込んで来た。運転

手は「Aさんが誘拐された！」と、おびえながら報告した。「空港を出た後、後ろから来た車に追突された」「拳銃を持った男たちがAさんを車の中に押し込んで逃走した」「『警察に言うな、警察に言ったらこの日本人を殺す』と言われた」。マニラ支社長は、直ちに本社(日本)にAさんが誘拐されたことを報告した。

Q 現地対策本部と本社対策本部、それぞれの対応は？

Point 家族対策、外務省(大使館)への援助要請、マスコミ対策、情報管理など

〈実演〉 誘拐に遭遇した際の対処法



無抵抗の意思を表すには？



誘拐犯を挑発してはならない
視線はどこに？



動作は迅速に？
それともゆっくり？
絶対にしてはいけないことは？



目隠しされると、訓練と分かっていても相当な恐怖を感じる